

岡崎市社会資本整備総合交付金評価委員会議事録

1 日時

令和 7 年 12 月 24 日（水）9：30～

2 場所

岡崎市役所 西庁舎 7 階 704 号室
（オンライン会議にて開催）

3 評価委員

出席者

委員長：名城大学教授	鈴木 温 氏
委員：名古屋大学准教授	井料 美帆 氏
委員：名古屋大学准教授	中井 健太郎 氏
委員：名古屋市立大学准教授	三浦 哲司 氏

4 事務局

土木建設部建設企画課課長	村井 宣雄
土木建設部建設企画課副課長	萩原 浩晃
土木建設部建設企画課係長	平岩 美佳
土木建設部建設企画課主査	小林 隆幸
都市政策部まちづくり推進課主査	小林 佑大
都市政策部まちづくり推進課主査	蒲野 悟

5 傍聴人

なし

6 委員会次第

(1) 開会

委員長選任

(2) 議事

都市再生整備計画「乙川リバーフロント QURUWA 戦略地区第 2 期」事後評価

(3) 閉会

7 配布資料

- ・事後評価シート
- ・評価委員会説明資料

8 会議要旨

- (1) 本委員会は、「岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領」第2条の規定により、公開となることの説明
- (2) 委員長の選出、鈴木委員を委員長に選出
- (3) 議事（事務局説明、質疑応答）

9 議事内容

鈴木委員長	都市再生整備計画「乙川リバーフロントQURUWA戦略地区第2期」の事後評価について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（都市再生整備計画「乙川リバーフロントQURUWA戦略地区第2期」の概要と事後評価（案）前半部分について説明。）
鈴木委員長	事務局の説明事項でご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。
井料委員	非常にたくさんの指標で多角的に評価されている。一部目標を達成していないが、「岡崎公園を訪れる観光客数」は、コロナや大河ドラマなどの影響が大きく、目標値に近い値であるので重く捉える必要はない。フォローアップを適切に行ってもらえば良いのではと思う。「計画区域内居住率」についても、未達成とはいえ計画途中で上方修正した目標値に対して未達成であり問題視する必要はない。「東岡崎駅の降客数」については、全国的に旅客数が減少傾向で仕方ない面がある。また、東岡崎駅の改修中であることの影響もあるのではないかと感じた。R5、6年度は横ばい傾向であるため、引き続き傾向を観測して対策をしていただければと思う。 事前説明時の資料から修正し、目標未達成への影響度と要因の分類をしたということだが、一般的な分類か。
事務局	国のガイドラインに基づき整理している。事前説明においては、全指標に対して指標改善への貢献度を整理していた。本来未達成指標は、未達成の要因を整理すべきだったため、修正させていただいた。
井料委員	修正内容について理解した。修正方針についても問題ない。

三浦委員	評価について異存ない。井料委員とやり取りされていたように、未達成の指標もあるが致し方ない事情やほとんど達成している状況であり、ネガティブに捉える必要はない。意見というよりは、引き続き取り組んでいただきたいという感想とさせていただきます。
中井委員	自分も同様の考えである。概ね指標は達成しており適切に進んでいる。今回の計画期間は、コロナによる生活様式の変容等があり、目標から逸脱する仕方ない面がある。3期計画については、そうした点を反映して計画や目標値を更新して引き続き取り組んでいただければと思う。
鈴木委員長	指標に関連する内容は、一部未達成のものもあるがコロナや大河ドラマなど外的要因による致し方ない面があり、事業は適切に進められているため妥当なものとは判断する。
事務局	(都市再生整備計画「乙川リバーフロントQURUWA戦略地区第2期」の概要と事後評価(案)後半部分について説明。)
鈴木委員長	事務局の説明事項でご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。
井料委員	QURUWA地区では、地域住民や民間が積極的に参画している印象がある。シンポジウムや地域の会合などが開かれ裾野が広がっているように思う。継続的に取り組むには新規で参画する人や企業も必要であるため、実際の状況をお聞きしたい。
事務局	KCBR という QURUWA 7 町広域連合会の地域の会合では、まちに強い想いを持っていていただいている方が中心となって、町内会長を巻き込みながら取り組んでいる。 地域においても担い手不足が課題感としてあり、次世代の会という実働部隊の形成や、高校生まちづくりプロジェクトと連携しながら、新しい人が参画する機運を高めている。また、民間のお店などで居住相談が生まれるなど、様々な面で裾野が広がっていると考えている。
井料委員	民間活力が上手く回っているように思うが、行政が提案する事業についても地域の意見が反映されているか。
事務局	QURUWA 7 町広域連合会の成り立ちとしても、中央緑道の行政のハード整備によって地域の変革を議論するところから始まっており、各種事業について適宜議論しながら進めている。

井料委員	事業の実施運営や維持管理についても地域や民間の理解は不可欠であるため継続していただければと思う。
三浦委員	ウォーカブルなまちづくりは回遊性の向上だけでなく、名古屋市では道路にテーブルやイスなどを出して賑わいを創出していた。籠田公園周辺でもそういう風景を見たことがあるが、QURUWAの取り組みの一環として行われているのか。背景や事情など市側の関わりはいかがか。
事務局	岡崎市でも道路空間活用に取り組んでいる。1期計画で社会実験を通して実効性を検証し、2期計画では、社会実装として本計画の関連事業に公民連携事業として位置付けている。
三浦委員	この計画の取り組みの一部だと理解した。そうしたミクロな取り組みも人の目に触れるものであり大切であると思うので、継続して取り組みを続けていただけたらと思う。
中井委員	現在のところ今回の事後評価に地域住民から意見がなく残念である。シンポジウム等で意見交換されているところではあるが、今回の事後評価原案の周知についてはいかがか。
事務局	事業計画であり生活者に届きにくいのではと感じるが、国のガイドライン等に沿って公表手続きを行っている。各事業に対して地域住民と意見交換を行っている。
中井委員	様々な場面で市民から意見をもらうことで国にとっても市にとっても分かりやすくより良いと思う。
鈴木委員長	良い取り組みをしているので適切に市民へ届くと良いと思う。

10 結果

今回審議された事後評価案が妥当であることを判断する旨、全委員一致で採決された。